

(電子メール施行)
農 技 第 1108 号
令和 3 年 4 月 30 日

各関係機関長 様

兵庫県病虫害防除所長

病虫害発生予察防除情報第 2 号を發表します。

前年に続き、今年も暖冬となり、広い地域でスクミリンゴガイの越冬が可能であったと考えられます。前年にスクミリンゴガイが確認された地域を中心に、移植前後の防除の指導をお願いします。

令和 3 年度 病虫害発生予察防除情報 第 2 号 スクミリンゴガイの防除対策について

- 1 対象作物 イネ
- 2 害虫名 スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ)
- 3 対象地域 県南部 (特に播磨地域と淡路地域)
- 4 スクミリンゴガイについて
 - (1) スクミリンゴガイ (写真) は水田内や水路等で土中に潜って越冬し、水温の上昇に伴って活動を再開する。
 - (2) イネの食害は、移植直後の 3～4 葉期の柔らかい葉で起こりやすく、5 葉期以降にはほとんど起こらない。移植後から 3 週間頃までの本種の被害を、いかに抑えるかが重要である。
 - (3) 昨年から今年にかけて暖冬であったため、冬期の気温から本種が越冬可能だったと推定される地域は、通常年で越冬が可能な地域より広域に及んでいる (図)。これらの地域では越冬中の死亡が少なかった可能性があるため、前年に本種の発生が見られた場合は、移植前後の防除対策に努める必要がある。



写真 スクミリンゴガイ (左) と卵塊 (中央と右)

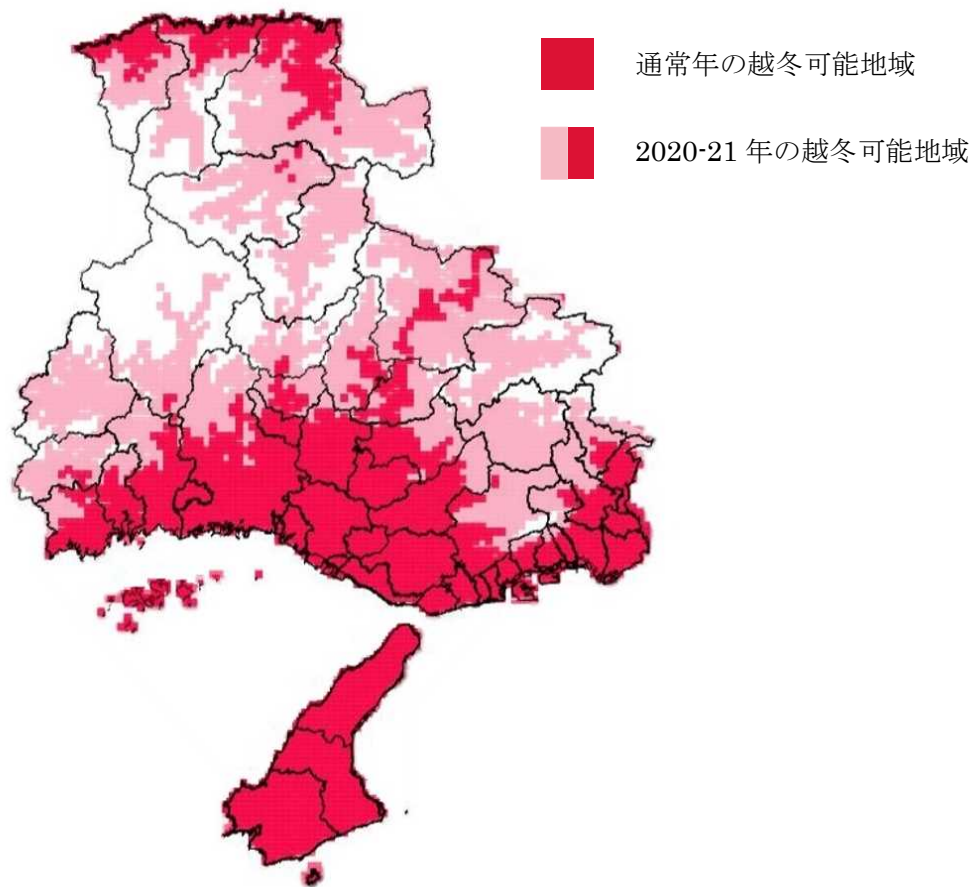


図 冬期の気温から推定されるスクミリンゴガイ越冬可能地域

メッシュ農業気象データ（2020-21 気温データ、平年気温データ）を用いた低温積算温度(小澤・牧野, 1988)より推定。

5 防除上の注意点

(1) 耕種的・物理的防除

① 水路からの侵入防止

取水口に目合い9 mm以下の網を設置し、用排水路からの貝の流入を防止する。代かき前の入水期から移植後3週間（5葉期頃）まで設置する。なお、刈草などのゴミにより目詰まりすることがあるので、取水口から距離をとって囲むようにするなど、設置方法を工夫する。

② 移植後の浅水管理

本種は、水中でないと食害できないことから、移植後から3週間程度までの期間、水深4 cm以下（理想は1 cm以下）の浅水管理を実施することで本種の被害

が大幅に軽減できる。

圃場の凹凸差が大きい場合は、浅水管理だけでは被害回避が難しいため、ほかの手段も併用する必要がある。また、栽培跡にレーザーレベラーなどを用いて圃場の均平化を図ることを検討する。

③ 貝の捕殺と殺卵

移植直後の食害を防ぐため、移植前～直後に貝を捕殺する。ジャガイモやナス、キャベツなどを水中に置くと貝が集まってくるため、効率的に捕殺できる。卵塊は押しつぶして処分する。作業に当たっては、貝には人体に有害な寄生虫（広東住血線虫）がいる可能性があるため、直接触れないようにゴム手袋を着用するなど注意する。

(2) 化学的（薬剤）防除

移植時期の薬剤散布

スクミリンゴガイの被害が懸念される場合、本田防除を行う（防除の目安：水稻移植後2週間以内に、殻高25mm以上の貝が1㎡当たり1.5頭以上で即時防除）。薬剤は湛水状態で施用し、3～4日間は水の入出流をさける。また、漏水田での使用はさける。

薬剤防除に当たっては、スクミリンゴガイに登録のある薬剤を使用し、使用時期や使用方法、使用量などの適用条件を遵守する。

(3) その他の防除対策や本種の詳しい生態については、農作物病害虫・雑草防除指導指針の参考資料「3-3 スクミリンゴガイの生態と防除対策」を参照にする。

(<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/haishinfile/list/hyogo>)

*この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページ

(<http://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/>) に掲載しています。

問い合わせ先	兵庫県病害虫防除所	0790-47-1222
--------	-----------	--------------